

Music

ハワイの音楽シーンを変えたサーファーデュオ 『カ・アウ・クレーター・ボーイズ』

Text: George Cockle
文/ジョージ・カックル
Photo: Bill Krause
写真/ビル・クラウス



ハワイの音楽シーンは素晴らしい。面白いといったほうがいいのか。ハワイならではの独特な世界がある。それはラジオからローカルのアーティスト達の音楽が流れてくること。ローカルのアーティストを大事にする心があり、インディーズ・レーベルの音楽でも、ラジオで流してサポートをしている。それはアメリカの他の州ではあり得ないことだ。その上、ほとんどのハワイアンアーティストのライブは、ハワイで観ることができる。ハワイのアーティスト達はCDデビューをしても、デビューしてなくても、有名でも無名でも、ワイキキのホテルのロビーやビーチサイドのバー、あるいは街の中のライブハウスなどで気軽に聴くことができる。アーティスト達も演奏する場所がたくさんあるので、音楽レベルも高い。

それからもうひとつ、ハワイの音楽シーンでは素敵なことがある。それはディナークルーズ。そう、観光客向けの船上での夕食だ。これもハワイのアーティストのライブを観るチャンスのひとつで、これは素敵な体験だろう。

僕も音楽CDを作っていた90年代は、よくクルージングに乗ってディナーをしながら、

傘を突き立てたマイタイやピニャコラーダを飲んでた。

その頃に観たバンドのひとつが、このカ・アウ・クレーター・ボーイズ。ふたり組のデュオで、揃ってサーファーだ。ひとりにはミリオンダラーボイスといわれるヴォーカル兼ギターのアーニー・クルーズ・ジュニア。もうひとりにはピアノみたいに美しい音を出せるウクレレとヴォーカルを担当するトロイ・フェルナンデス。彼らはカバー曲とオリジナル曲で90年代のハワイのジャワイアンブーム(レゲエ×ハワイアン)、にのったバンドのひとつだ。今回紹介したアルバムにはハワイのトラディショナルな曲をはじめ、ロックのカバーやオリジナルが入っている。一曲目の『トロピカル・ハワイアン・デイ』はオリジナルで、ハワイのチャートでも一位を記録した。ビートの効いたリズム感のあるメロディーが、若いハワイアン達やサーファーの心をくすぐったのだ。なかでもトロイのウクレレ・ソロは、それまでのウクレレに新しい命を捧げた。ウクレレの存在は学校で習う楽器から、格好いい楽器に変身したんだ。もちろん彼らは観光客相手の経験もあるから、トラッドのハワイアンにも精通し、演

奏もうまいから、ということなした。

僕がそんな彼らを初めて見たのは、やはり船の上だった。それからというもの僕はハワイに行くたび、彼らのライブを見に行っていた。ある時ホノルルの港にあるアロハマーケットプレイスのライブを見た時、彼らがハワイにとっていかに大きな存在かということに気づいた。彼らの前にはウクレレを持ってきていた子供達がたくさんいた。その子供達はみんなトロイがステージに立っている前に並び、トロイの指の動きをジーッと見てテクニックを自分のものにしようとしていた。その後、ハワイの音楽は変わっていった。彼らがウクレレの演奏に広がりを持たせたといっても言い過ぎではないだろう。

これは余談だけど、僕はその後、アーニーと仲良くなり、ローカルしか知らないサーフスポットによく連れて行ってもらった。アーニーはのんびりとして優しいアロハスピリットにあふれたナイスガイだよ。



ジョージ・カックル ● 60~70年代のロックに精通し、ラジオ・パーソナリティとしてインターFMや東京FMで活躍中。鎌倉出身・在住。波乗り歴38年の親父サーファー。
www.whatsupmusicinc.com